

◎今週の御言葉 「祈り、祈られて」（エペソ人への手紙 6章10～20節） 「邪悪な日に際して対抗できるように、また、いっさいを成し遂げて、堅く立つことができるように、神のすべての武具をとりなさい。」（13）

○あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひいたします。使徒パウロが「邪悪な日に備えて、悪と戦うために神の武具を身に付けなさい」と勧めています。悪とは何かというと、暗やみの世界の支配者、天にいるもろもろの悪霊です。ですから、気を引き締めて、何が善であり悪であるか、しっかり目覚めていることが大切です。

14節に「腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、足には平和の福音の備えをはきなさい」とあります。真理の帯とは、十字架のキリストが示された神の愛のことであり、「正義の胸当て」とは「神の義」のことでしょう。「足には平和の福音の備えを履きなさい」とは、私たちがキリストの救いの福音をたずさえる足になる、ということです。私は伝道が一番の基本はロコミだと思っています。一人一人が日々神様を喜び、生き生きしていること、そして人々の名を挙げて寄り添い、祈り、教会にお誘いする、そんな熱い思いを伝えるのが一番です。

16～17節に、「信仰の大盾を取りなさい」「救いの兜をかぶりなさい」とあります。疑いや迷い、嫉妬心や憎しみの火矢は厄介です。小さな火のうち消し止めねばなりません。また「救いの兜をかぶる」とは神の恵みである救いを素直に受け入れることでしょう。

○17節の後半からは、二つの攻撃の武器です。一つは「御霊の与える剣である神のことば」です。イエス様は、荒野の誘惑の所で御言葉をもって悪魔を退けられました。もう一つの武器は「祈り」です。パウロは「どのような時にも霊に助けられて祈り、願ひ求めなさい」と勧めます。また彼は「鎖につながれていても、語るべきことを大胆に語れるように、私のために祈ってください」と求めています。たとえ、病床や困難の中にあっても、その置かれた場所で「神様の栄光を表すために、私を用いてください」と祈ることは、とても前向きな生き方ですね。イエス様はなぜ「迫害する者のために祝福を祈れ」と言われたのでしょうか。憎しみは大きなマイナスのエネルギーです。「迫害する者の幸せを祈る」くらいのプラスのエネルギーを注ぎ込まないと、憎しみに勝ち、私たちの心を守るということではできません。

エペソ書はパウロの熱い思いが生き生きと伝わってくる手紙です。これから始まる新しい年、時々読み返し、思い起こしたい御言葉の一つではないでしょうか。この一年の皆様の歩み、姫路あけぼの教会の歩みが、御言葉に支えられ、また祈りに押し出された歩みでありますよう、心から主の御祝福をお祈りいたします。